

いばらきネットモニター 家庭の「食品ロス」に関するアンケート結果

1 調査目的

このアンケートは、県民等の食品ロスに関する意識や家庭における取組状況を把握し、食品ロス削減に向けた今後の茨城県の実施計画、及び茨城県廃棄物処理計画（食品ロスに関する事項）策定の参考とするために実施しました。

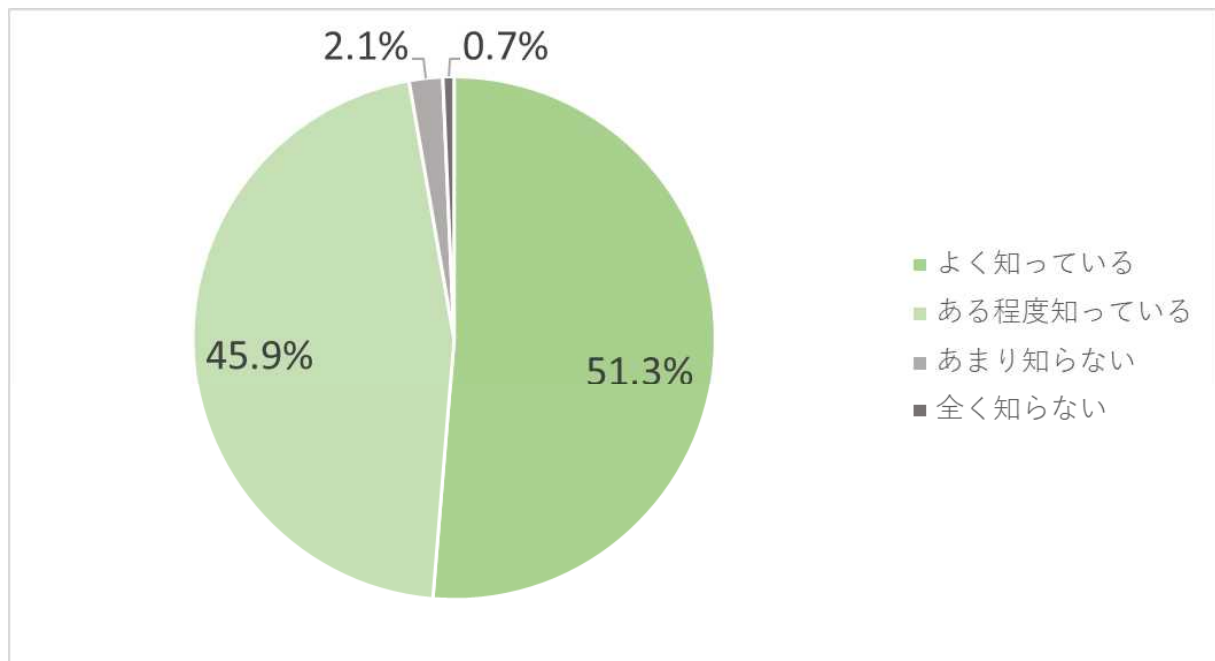
2 結果の概要

- ・食品ロス問題の認知度は高かったが、県の取組（「いばらき食べきり協力店」や「いばらきフードロス削減プロジェクト」）については認知度が低かった。
- ・食品ロスを「多く発生させていると思う」と「少し発生させていると思う」割合は合わせて全体の 56.7%となっており、発生させている食品ロスの種類は「自宅で調理した料理の食べ残し」が一番多かった。また、食品ロスの発生理由は「後で食べようと保存していたが傷んでしまった」が一番多かった。
- ・食品ロス削減の取組状況は「残さずに食べる」をはじめ、何かしらの取組を行っている回答が多く、「取り組んでいることはない」割合は全体の 1.1%であった。
- ・事業者の取組認知度は、全体の 63.5%が「よく感じる」、「たまに感じる」と回答しており、小売店に対して期待していることは「賞味期限の近い商品や規格外商品の購入の協力呼びかけ」、飲食店に対しては「食べきれなかった料理の持ち帰りができること」の回答がそれぞれ一番多かった。

【問1】（食品ロスの認知度）

あなたは、「食品ロス」（まだ食べられる食品を捨ててしまうこと）が問題となっていることを知っていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,156)



○「よく知っている」が51.3%（593人）と最も高く、次いで「ある程度知っている」が45.9%（531人）となった。

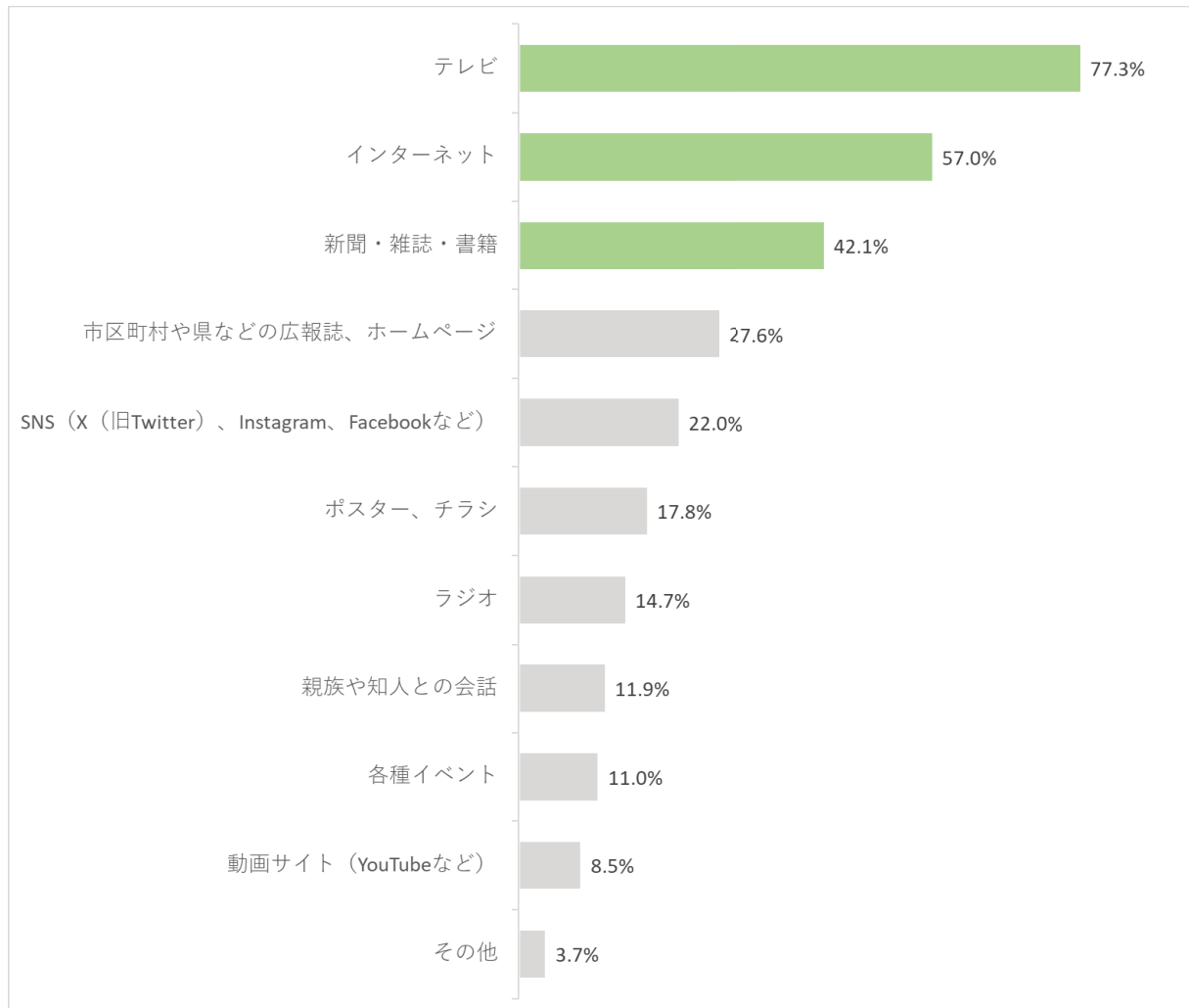
○なお「あまり知らない」、「全く知らない」は全体の3%に留まった。

【問2】（食品ロスに関する情報の入手元）

（問1で「よく知っている」、「ある程度知っている」、「あまり知らない」を選択した方へ）

あなたは、食品ロスの問題や取組に関する情報を何から入手していますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n= 1,148)



○「テレビ」が77.3%（887人）で最も高かった。次いで「インターネット」が57.0%（654人）、「新聞・雑誌・書籍」が42.1%（483人）の順に高かった。

○「その他（3.7%）」として、次のような意見が挙げられた。（計43件）

- ・スーパーマーケットの店頭
- ・学校、子どもの学習
- ・職場

【問3】（食品ロスに関する県の取組の認知度）

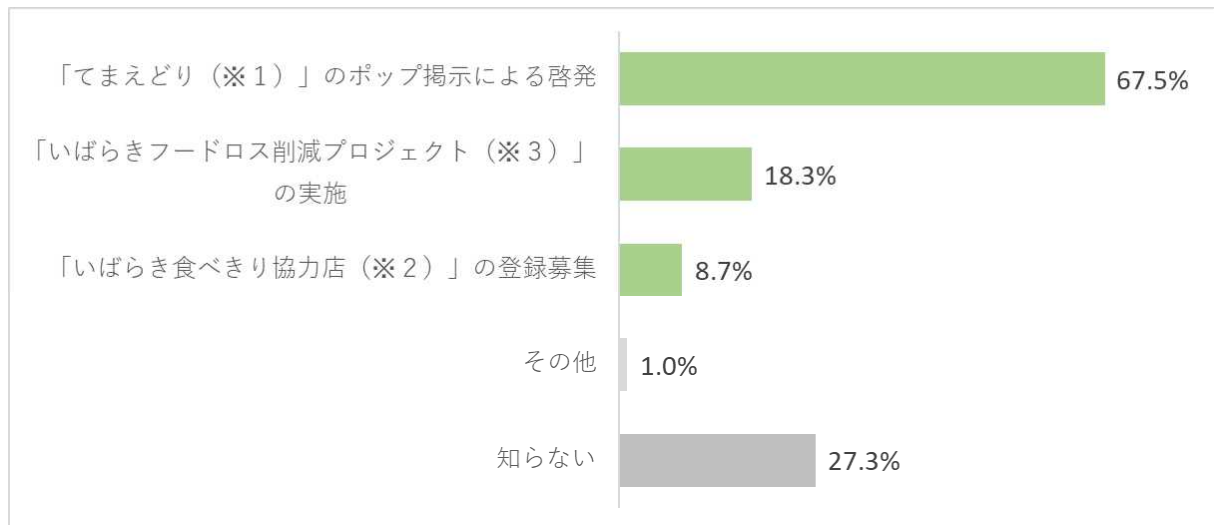
あなたは、茨城県が実施している食品ロス削減に関する取組を知っていますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

※1「てまえどり」とは、小売店で商品棚の手前に並ぶ賞味期限の近い商品を積極的に選び、購入すること。

※2「いばらき食べきり協力店」とは、食べきり促進などの食品ロス削減に取り組む店舗として認定された飲食店や宿泊施設のこと。

※3「いばらきフードロス削減プロジェクト」とは、フードロスを抱える事業者と活用したい事業者を対象とする無料の「マッチング支援コーディネート窓口」設置やフードバンクへの提供、飼料等リサイクル事業者への支援などにより、事業系食品ロスの有効活用を推進する取組のこと。

(n=1,156)



○「『てまえどり』のポップ掲示による啓発」が67.5%（780人）で最も高かった。また「『いばらきフードロス削減プロジェクト』の実施」は18.3%（212人）、「『いばらき食べきり協力店』の登録募集」は8.7%（101人）であり、「知らない」割合は27.3%（316人）であった。

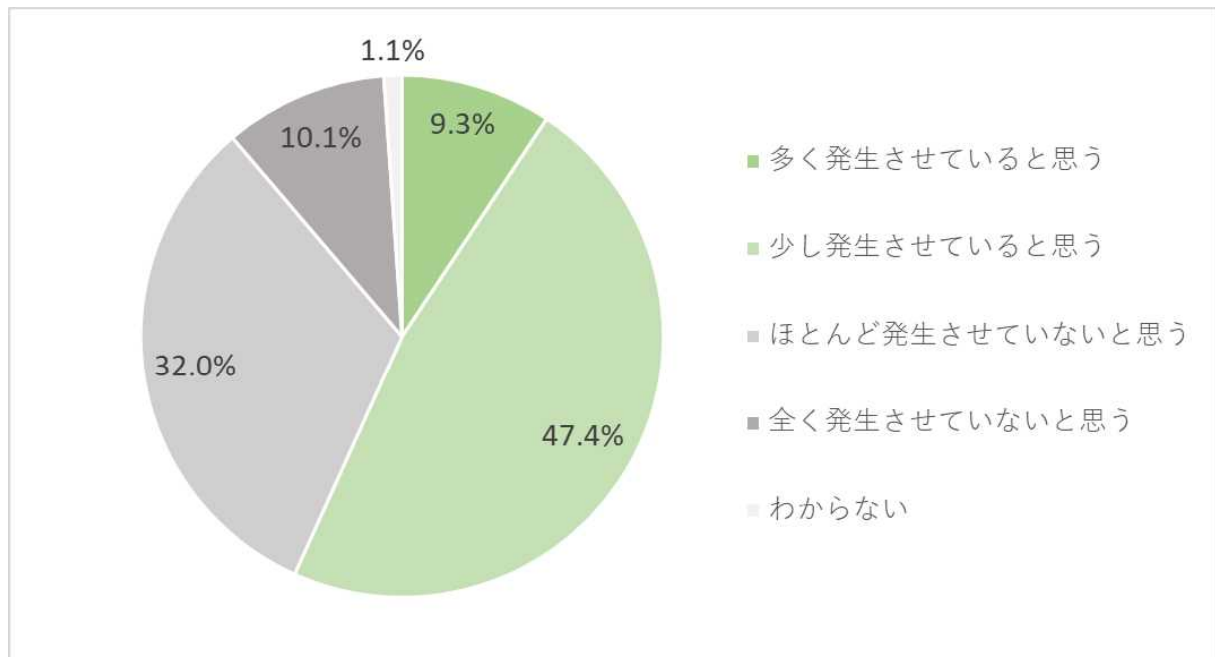
○「その他（1.0%）」として、次のような意見が挙げられた。（計12件）

- ・食事会で食べ残しを減らす取り組み

【問4】（食品ロスの発生状況）

あなたは、生活の中で、どの程度食品ロスを発生させていると思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,156)



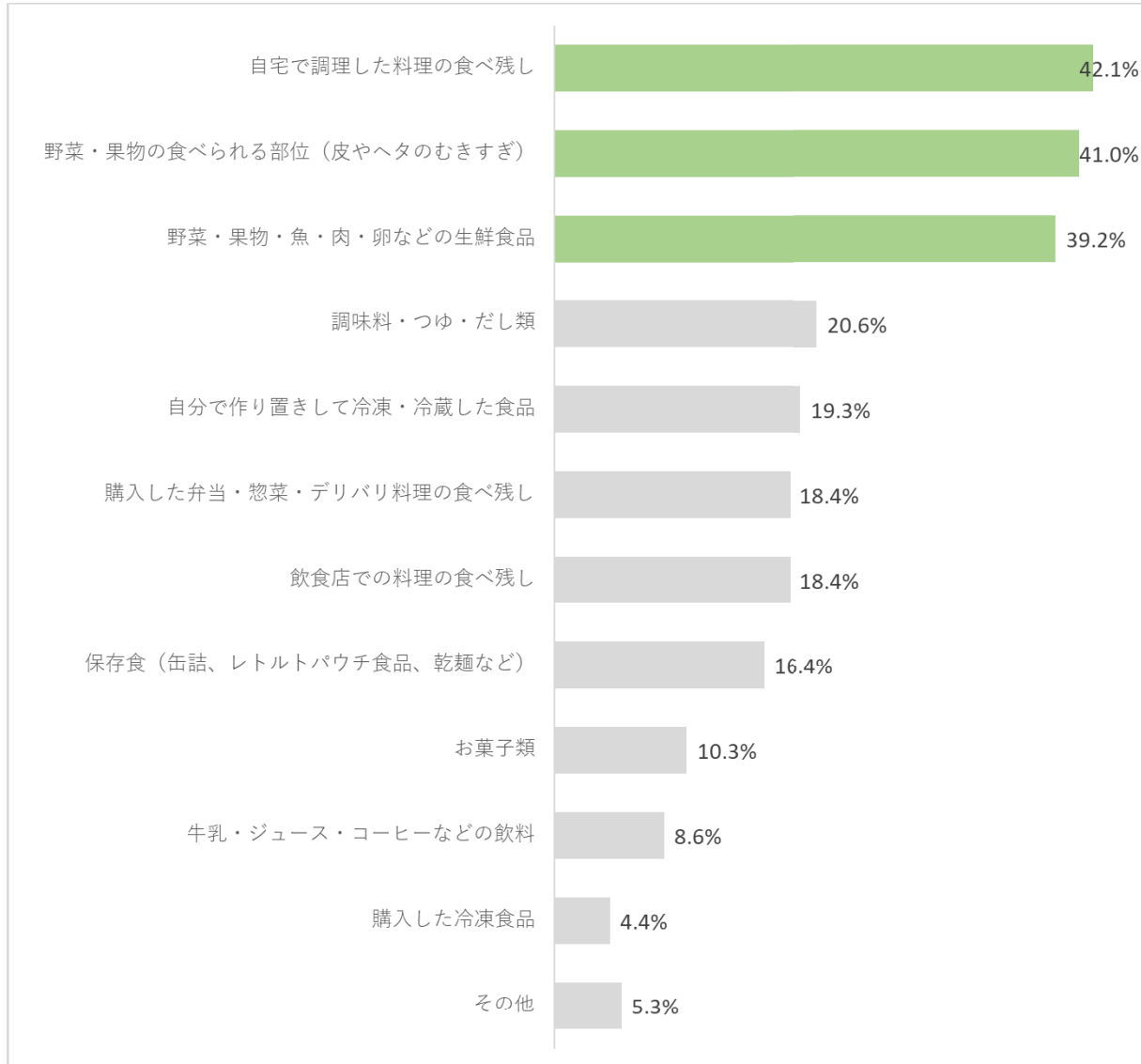
○「少し発生させていると思う」が47.4%（548人）と最も高く、次いで「ほとんど発生させていないと思う」が32.0%（370人）、「全く発生させていないと思う」が10.1%（117人）と続いた。

【問 5】（発生している食品ロスの種類）

（問 4 で「多く発生させていると思う」、「少し発生させていると思う」、「ほとんど発生させていないと思う」を選択した方へ）

あなたが、まだ食べられるのに捨ててしまっている食品はどのようなものですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,026)



○「自宅で調理した料理の食べ残し」が 42.1%（432 人）で最も高かった。次いで「野菜・果物の食べられる部位（皮やヘタのむきすぎ）」が 41.0%（421 人）、「野菜・果物・魚・肉・卵などの生鮮食品」が 39.2%（402 人）の順に高かった。

○「その他（5.3%）」として、次のような意見が挙げられた。（計 54 件）

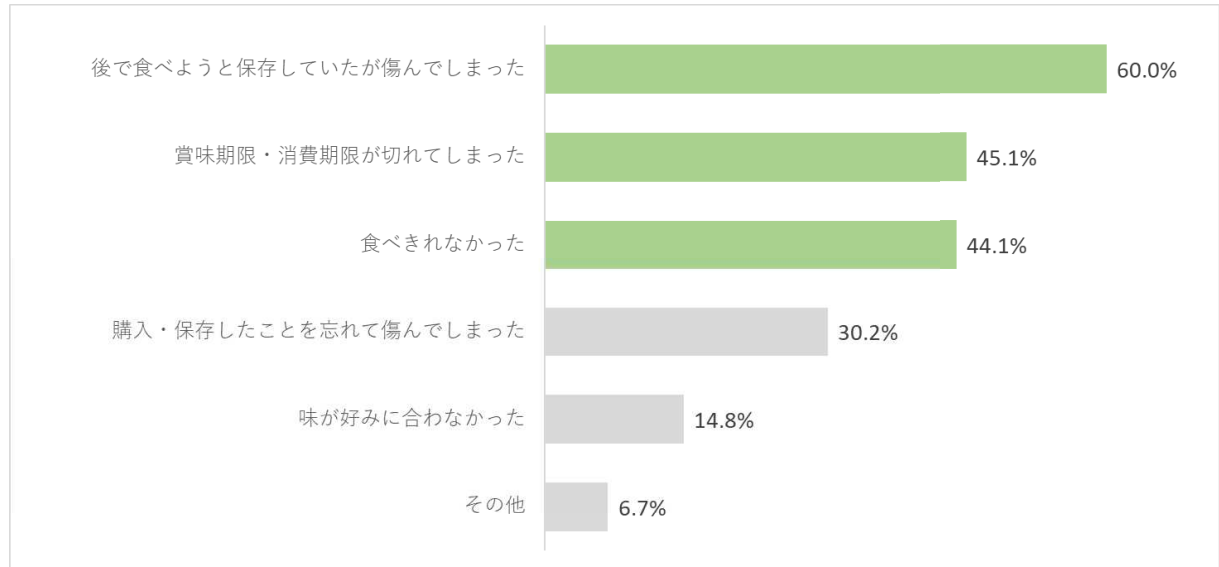
- ・頂き物の野菜、調理済み食品
- ・パン
- ・漬物

【問6】（食品ロスの発生理由）

（問4で「多く発生させていると思う」、「少し発生させていると思う」、「ほとんど発生させていないと思う」を選択した方へ）

あなたが、問5で選んだ食品を捨ててしまった理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,026)



○「後で食べようと保存していたが傷んでしまった」が60.0%（616人）で最も高かった。次いで「賞味期限・消費期限が切れてしまった」が45.1%（463人）、「食べきれなかった」が44.1%（452人）の順に高かった。

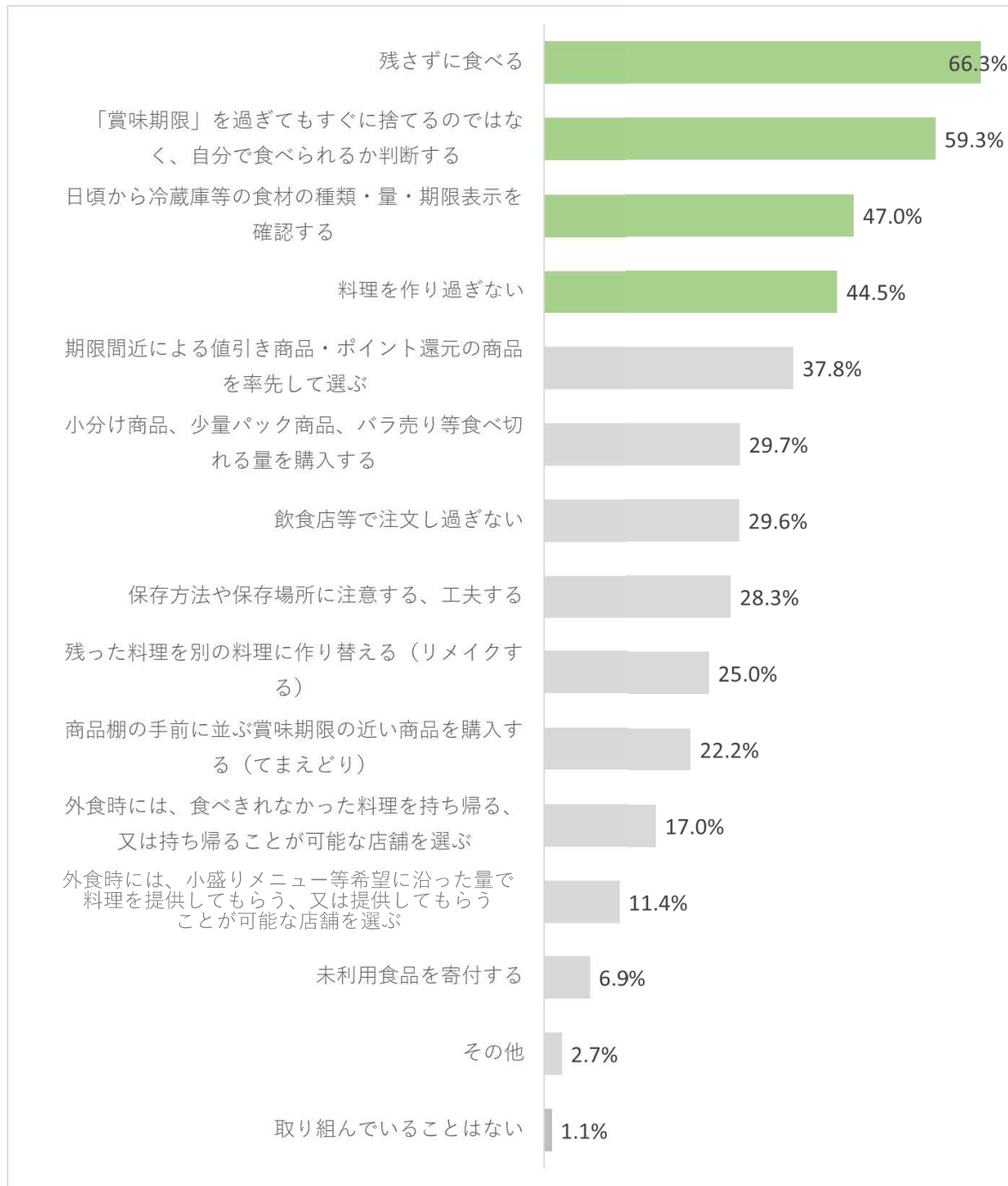
○「その他（6.7%）」として、次のような意見が挙げられた。（計69件）

- ・減塩を心掛けている
- ・残留農薬が気になり野菜の皮を厚く剥きがち
- ・調味料を使う分以上に出してしまう

【問 7】（食品ロスの取組状況）

あなたは、「食品ロス」を減らすために何に取り組んでいますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,156)



○「残さずに食べる」が 66.3%（766 人）で最も高かった。次いで「『賞味期限』を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が 59.3%（686 人）、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」が 47.0%（543 人）、「料理を作り過ぎない」44.5%（514 人）の順に高かった。

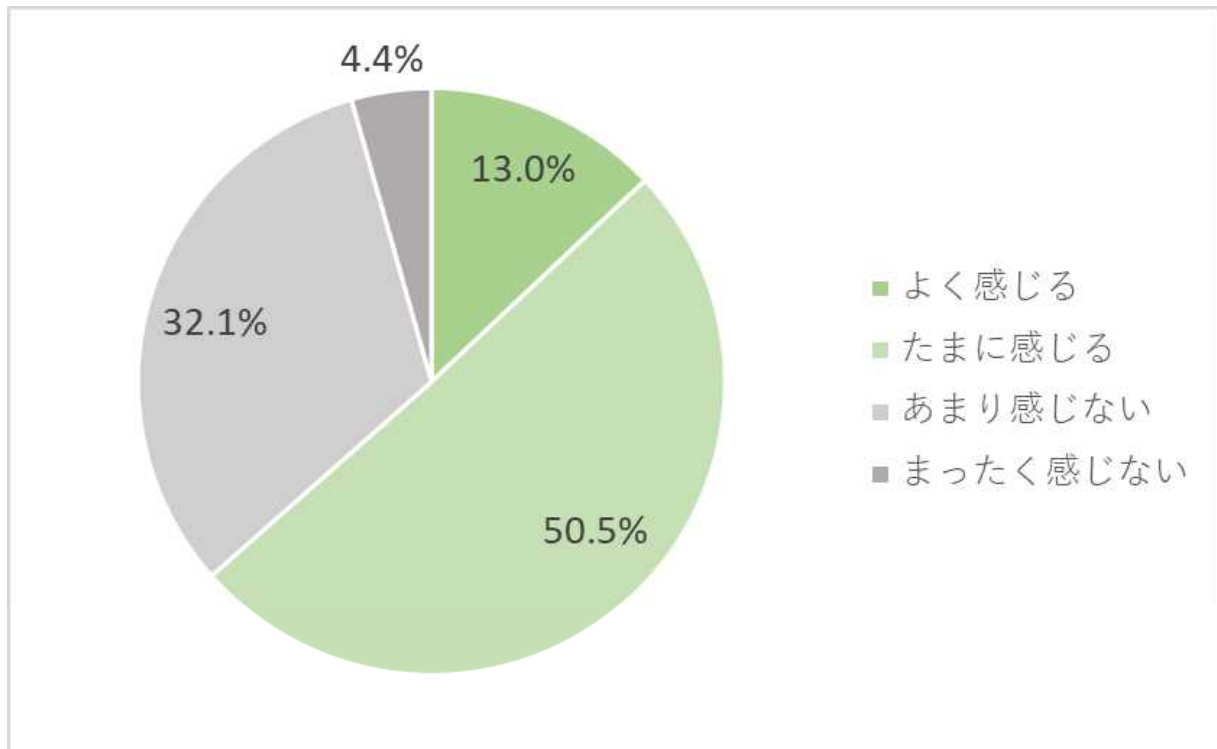
○「その他（2.7%）」として、次のような意見が挙げられた。（計 31 件）

- ・必要以上に買い過ぎない
- ・冷凍可能なものは冷凍保存する
- ・生ごみは家庭菜園等の肥料にする

【問 8】（事業者の取組認知度）

あなたが買い物や外食の際に利用する店舗は、食品ロス削減に向けた取組を積極的に行っていると感じますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,156)

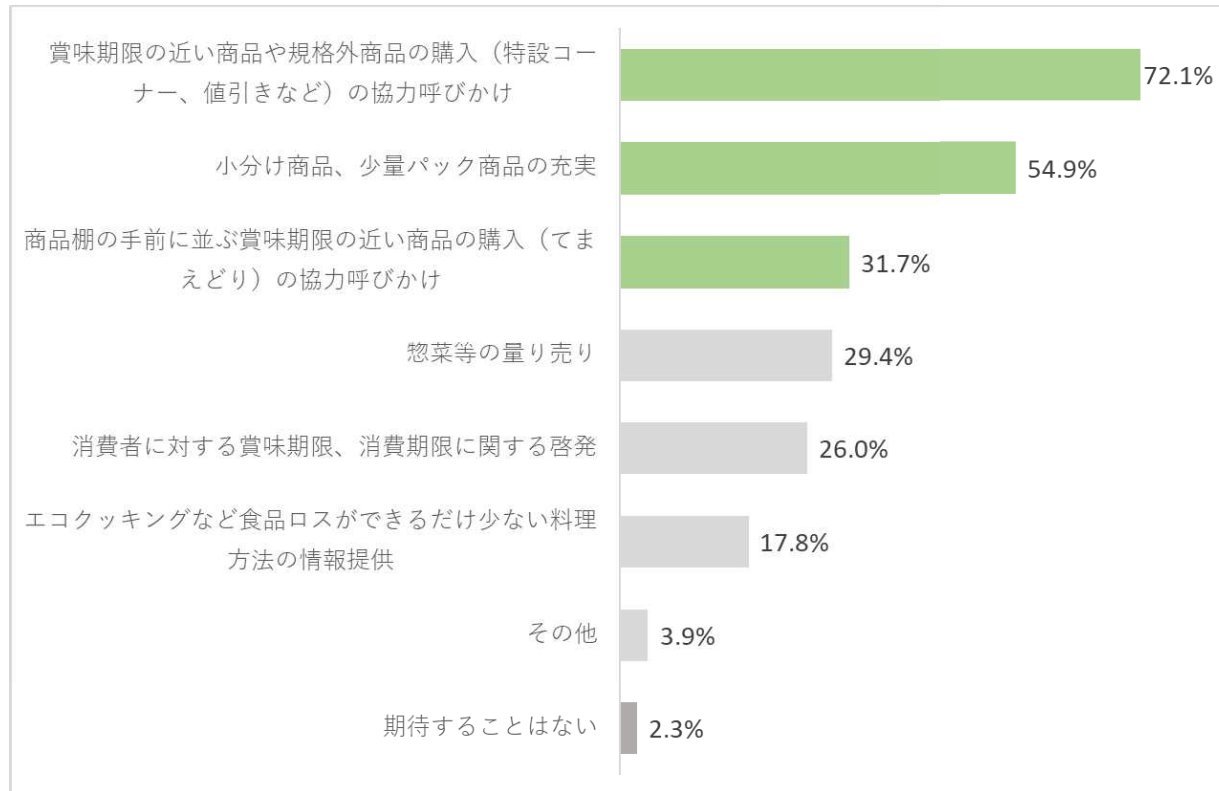


○「たまに感じる」が50.5%（584人）と最も高く、次いで「あまり感じない」が32.1%（371人）、「よく感じる」が13.0%（150人）と続いた。

【問 9】（食品小売店に期待すること）

あなたは、食品ロスの削減に関して、顧客の立場から食品小売店に何を期待しますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,156)



○「賞味期限の近い商品や規格外商品の購入（特設コーナー、値引きなど）の協力呼びかけ」が 72.1%（833 人）で最も高かった。次いで「小分け商品、少量パック商品の充実」が 54.9%（635 人）、「商品棚の手前に並ぶ賞味期限の近い商品の購入（てまえどり）の協力呼びかけ」が 31.7%（367 人）の順に高かった。

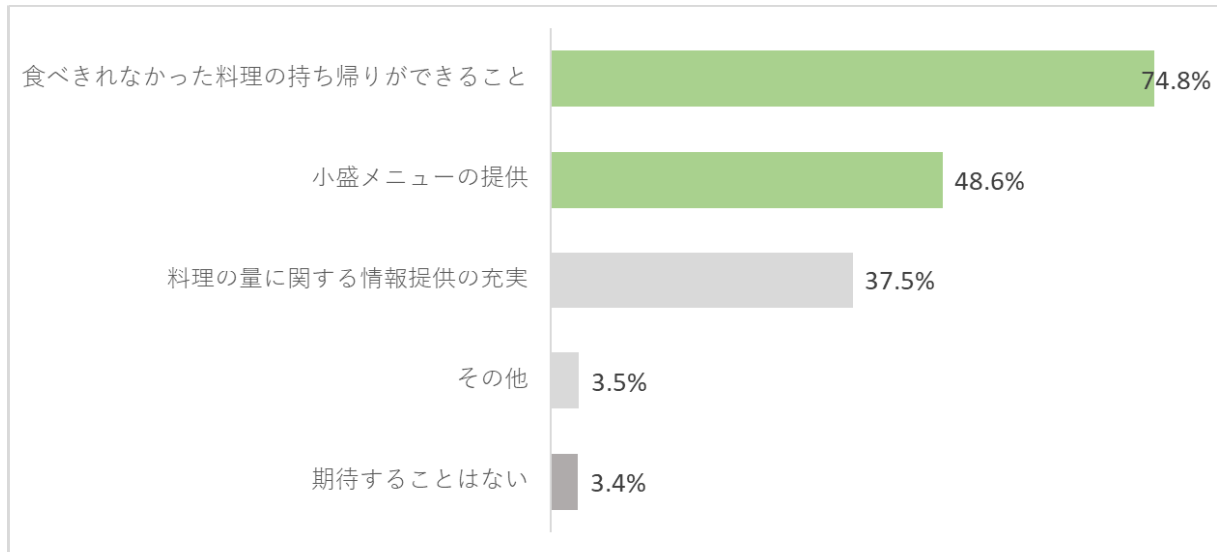
○「その他（3.9%）」として、次のような意見が挙げられた。（計 45 件）

- ・規格外野菜の販売、総菜等への活用
- ・季節商品の予約販売
- ・仕入れや在庫の管理

【問 10】（飲食店に期待すること）

あなたは、食品ロスの削減に関して、顧客の立場から飲食店に何を期待しますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,156)



○「食べきれなかった料理の持ち帰りができること」が74.8%（865人）で最も高かった。次いで「小盛メニューの提供」が48.6%（562人）であった。

○「その他（3.5%）」として、次のような意見が挙げられた。（計40件）

- ・規格外野菜の活用
- ・大盛りや食べ放題に対する啓蒙
- ・料理の量調整や不要なトッピングを申告しやすいシステムづくり

【問 11】（自由記述）

「食品ロス」の削減推進について、県民（消費者）や事業者、行政へのご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。（200 字以内）

【消費者】

- ・ 勿体無いの意識が昔より低下している自分に気づく。気をつけて冷蔵庫をチェックします。
- ・ 事業者も様々な面で工夫してこの問題に取り組んでいると感じていますので、わが家族も意識高くロス削減に取り組みたいと気持ちを新たにしています。
- ・ 安いから買うという考え方だと、食べきれなかったり料理できなかったりでロスにつながる。

【行政】

- ・ 期限切迫品について、事業者主体の値引きだけではなく、行政主導のインセンティブ(ポイント、クーポンなど)があるとより進むと思う。
- ・ もっと目に見えるカタチでの「食品ロス」削減の啓蒙を大々的にするべき時期だと思います。キャンペーン月間など設けて消費者、関係事業者等への告知（広報誌への掲載、ポスターetc）など展開するべきではないでしょうか。一人ひとりへの意識付けをするべきだと思います。
- ・ いばらきフードロス削減プロジェクトといばらき食べきり協力店の活動を初めて知りました。とても良い活動なので広報誌ひばりなどでもっと宣伝しても良いと思います。
- ・ (食品ロス削減は) 社会全体で意識を持ち取り組むことと感じています。フードロス対策に取り組んでいる企業・団体・市町村のポジティブな情報の発信を強化するとよいと思います。
- ・ 幼少期からの教育が大切。今、生活している全てのひとに教育機会を提供して欲しい。
- ・ 学校教育では SDGs として取り組み始めているので、学校とも連携をしてほしい。

【事業者】

- ・ 海外に住んでいた時は、スーパーでは野菜や果物の量り売りが多かったです。袋売りの際の袋もエコではないので、量り売りを増やして欲しいです。
- ・ 恵方巻きやクリスマスケーキなど季節ものはフードロスが気になります。でも欲しい人もいると思うので、その辺を調査して販売数を管理できたら良いなと思います。
- ・ ロスになりそうなものは、お店で安く売って欲しいと思いますが、台の上にかにもあまりものみたいに置いてあると手を出しにくいのが本音です。
- ・ 各お店の SNS や総合サイトにて、賞味期限が近いなどの在庫処分（値引き）に関して発信してほしい。
- ・ 外食の際、少ない量のメニューを作ってくれるとお互いにロスを減らせるのではと感じる。
- ・ 食べ放題のお店で、お客さんがお皿に取り分けて食べきれず、残す人がいます。「もったいない」だと思いますので、お店の方で事前にお知らせをするとそのようなことが減らせるのではと思います。
- ・ 飲食店の食べ残しの持ち帰りの促進を勧めてほしいです。食中毒等の問題もあるので、持ち帰る際は、個人判断というのでも定着させてほしいです。

【その他】

- ・ まだフードバンクの活動を知らない企業や県民がたくさんいるので啓発を推進してほしい。
- ・ スーパーの店頭に不要な食品を寄付するボックスがあります。もし可能であれば、先月はどこに何をどのくらい配布、など行き先の報告を貼ってもらえると、このシステムの推進になりますし、寄付した人にとっては自分が役に立っているのがわかって良いと思います。

など 410 件の意見があった。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・食品ロス問題の認知度は高かったが、「いばらき食べきり協力店」や「いばらきフードロス削減プロジェクト」といった県の取組については、あまり知られていないことが分かったため、県の取組についてより効果的に県民へ発信していく。
- ・食品ロスの種類では、料理の食べ残しや生鮮食品等が多く、また発生理由としては保存中の傷みや賞味・消費期限切れの回答が多かったことから、家庭における「食べきり」や食材の「使いきり」といった食品ロス削減の取組促進を図る。
- ・また、第6次茨城県廃棄物処理計画（食品ロスに関する事項）策定に向けた参考資料として使用する。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調 査 時 期：2024 年 10 月 15 日 ～ 2024 年 10 月 28 日
調 査 方 法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答
モ ニ タ ー 数：1,600 名
回 収 率：72.3%（回収数 1,156 名）
回答者の属性：以下の通り

		人数（人）	割合（%）
全体（n）		1,156	100.0
地域別	県北	90	7.8
	県央	363	31.4
	鹿行	58	5.0
	県南	361	31.2
	県西	85	7.4
	県外	199	17.2
性別	男性	492	42.6
	女性	664	57.4
年齢別	16～19 歳	12	1.0
	20～29 歳	63	5.4
	30～39 歳	171	14.8
	40～49 歳	312	27.0
	50～59 歳	310	26.8
	60～69 歳	180	15.6
	70 歳以上	108	9.3
職業別	自営業	87	7.5
	会社員	464	40.1
	団体職員	55	4.8
	公務員	57	4.9
	主婦・主夫	223	19.3
	学生	28	2.4
	無職	119	10.3
	その他	123	10.6

(2) 担当課

茨城県県民生活環境部資源循環推進課（企画調整グループ）
電話：029-301-3020 E-mail：haitai1@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第 2 位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。
また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。